

[担当教員]

北後明彦（教授）中江研（准教授）浅井保（助教）

[Teaching Assistant]

合田宏明（A63）田中健人（A63）小松昌平（A63）

■課題とその趣旨

オフィスビルは、現代社会と都市を代表する建築であるが、近年その位置づけが大きく変わろうとしている。オフィス自体のもつ機能や役割が時代の要請から拡大・変化してきているからであるが、同時に建築空間として普遍的な性格をもっていることも確かである。

今回の課題では、次の4つの観点からのアプローチが大切である。

- (1) 場所のコンテクストの解説
- (2) 内部から外部への考察
- (3) 街並み（景観）としての配慮
- (4) 生活空間としての諸室の提案（考察）

さらにこの課題を通じて、建築の空間感覚（特にスケール感など）と図面表現との具体的な関係について理解を求める。

■事務所の概要

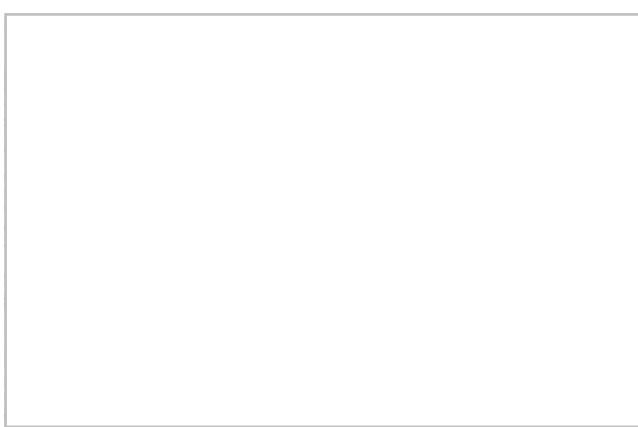
- ・このオフィスは特定の企業の自社ビルとし、その業種は、例えばファッションあるいはデザイン関連の企業等自由に想定すること。建物内に商品展示やプレゼンテーションのための空間を適宜設けてよい。
- ・常時 50～60 人程度の人が執務するものとするが、男女比、業務部門の構成等適宜想定すること。オフィスの機能は、主に企画・立案部門と管理・運営部門を中心で、商品等の製造・流通部門等は近くの別の場所に立地しているものとする。
- ・単なる業務空間というのではなく、地域と密着したプラス・アルファの機能を果たすため、展示、地域の催しなどの会場としての機能をもった建物の提案し公開性、地域への寄与を何らかの形で具体化すること。

■敷 地

- ・阪急六甲駅周辺の三か所（A,B,C）の敷地から一つの敷地を各自選ぶ。
- ・敷地面積はいずれも約 600m² (20×30m) 程度であるが、形状と寸法の詳細は適宜想定する。
- ・敷地は平坦で、道路との高低差はないものとして計画してよい。
- ・周辺環境などの計画条件は適宜想定してよい。容積率指定は 200%。

■建築概要

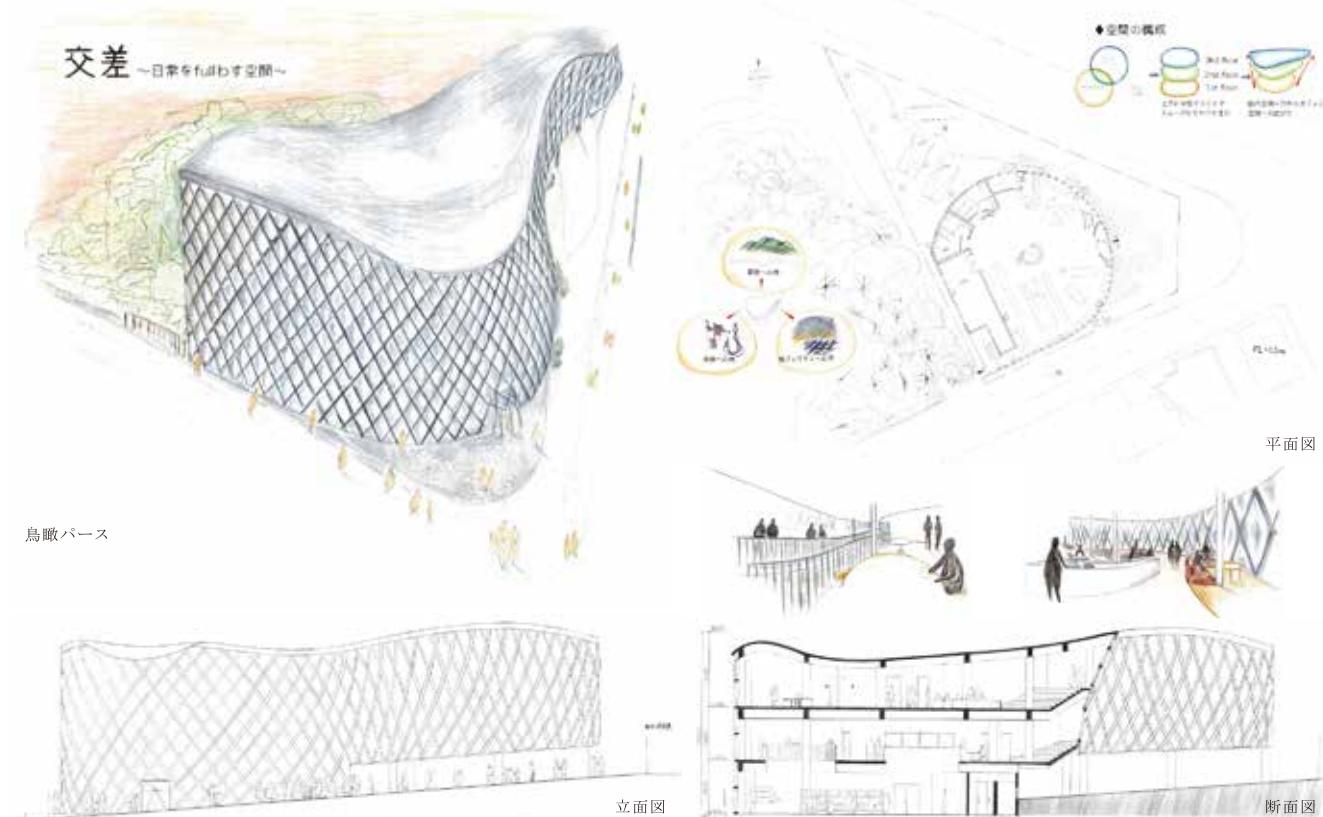
- ・構造規模：鉄筋コンクリート造 3～4 階建てを原則とする。
- ・延べ面積：1000～1200m²
- ・屋外に外来者用の2～3台のパーキングスペースを確保すること。



交差～日常を full わす空間～

大脇春

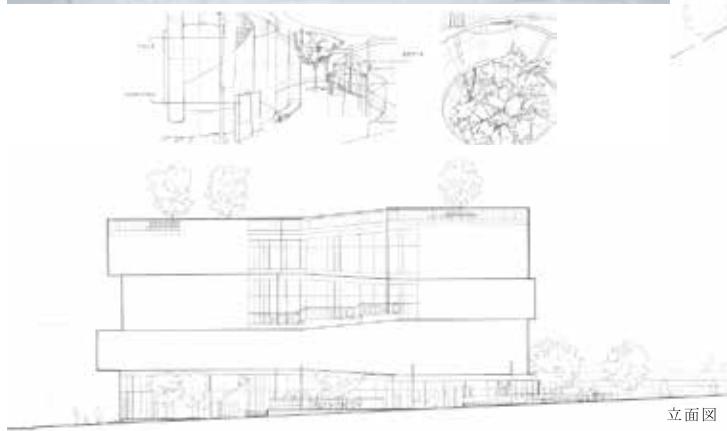
この事務所は貿易の街、神戸を活かした輸入食料品のオフィスである。格子で囲まれたガラス、開放的な吹き抜けと流線で辿られる空間によって優美なイメージを作り出す。六甲駅前のランドマークとなる事務所を目指し設計した。



Palette

越智誠

パレット型の広告事務所。広告という展色材を介して、社員・クライアント・地域の人々といった絵の具が混ざり合う。中央吹抜けやバス停前のベンチなど、地域の人々が入り込める空間を作ることで、敷地の境界を曖昧にさせ溶け込むよう設計した。



Preview

山田夏穂

「日本映画発祥の地」と呼ばれる神戸の街で、地域にゆかりある映画の製作を行う事務所。プロアレベルを敷地の傾斜を生かして変化させたことにより、空間の境界を曖昧にし、動線の上下の動きから、製作作業でこもりがちな人々が刺激を受けることを期待する。

